鹿野地区　地域づくり懇談会　　議事録

１　日　時　平成２４年１１月２日（金）　１９：００～２０：４０
２　会　場　鹿野町中央公民館
３　出席者　地元出席者　　２６名
市側出席者　　１９名
竹内市長、深澤副市長、木下教育長、羽場総務部長、松下企画推進部長、堀防災調整監、山根農林水産部長、藤井都市整備部次長、久野中山間地域振興課長、林文化財課長、富山危機管理課参事、尾室企画推進部次長
＜鹿野町総合支所＞中川支所長（司会）、米田副支所長、大空市民福祉課長、乾産業建設課長、西浦地域振興課課長補佐
＜事務局＞谷村協働推進課主任、岡田協働推進課主任

４　「地域防災計画の見直し」について
スクリーンに基づき説明（危機管理課参事）

５「協働のまちづくり」についての報告
（地区公民館長）　※スクリーンに基づき説明
鹿野まち普請の会は、１８自治会と１７の活動団体、計３５の団体で活動しています。４月には県内外から３００人のランナーを迎えて、吉岡から鹿野までの約１０ｋｍの鹿野往来マラソンをはじめ、蓮ウォークや盆踊り等のイベントを開催し、遊休農地の活用と食育、人づくりを目的とした幼稚園、小学校の米づくり、野菜づくりの指導支援をしています。それから地域安全まちづくり、我がまちは美しくを目指した清掃整備等、年間を通して会員皆さんの自主自立的な事業も含め、実施しています。まち普請の会としては、主催、共催、そして協働しながら、元気なまち鹿野づくりを目指しているところです。
きょうは、協働のまちづくりの中で順調に進んでいるものと、問題、課題があってなかなか進んでいないことを報告せよということですので、それを報告させていただきたいと思います。
最初に、順調に進んでいる取り組みからお話しさせていただきたいと思います。まず、鹿野城跡公園の清掃管理、鹿野景観の取り組みです。鹿野城跡公園の管理については、鳥取市で業務委託がなされ、業者に管理をしていただいているわけですが、旧小学校、中学校は勉学の場所であり、また鹿野城のあった歴史の場所でもあり、我々にとっては心のふるさとでもあるわけです。その城跡公園一帯を地区民の力で年間を通してより美しくきれいな憩いの場として保全したいという思いから、市から委託を受けられた業者さんと日程調整をしながら、１８自治会により５月、７月、９月の３回に分けて草刈りや清掃活動を行っているところです。多いときには１回に１５０人ほど出ていただいて、校庭から城山の草刈り等をしていただいています。そのおかげもあって、１１年経った旧鹿野小学校は現在も非常に良好な状況で、草に埋もれることなく多目的に利用していただいています。
それから、会員の城山まもりたいさんにも、市が委託契約している区域の外の広い範囲

を年４回から５回の草刈りとか施肥作業とか、また年間を通してアジサイ、ヤマブキ等の植栽管理を行っていただいています。

また、毎年１１月には鹿野まち普請の会と地区公民館、城山まもりたい共催で、城山公園の自然と景観をまもろうのイベントを実施しています。小学生、中学生、また鳥取大学の学生さんにも来ていただきながら、地区民一体になって、毎回大体１５０名前後集まるわけですが、清掃、植栽、また施肥作業等を実施して、額に汗した後は女性会員の皆さんにつくっていただいた豚汁、イノシシ汁、お握りをいただきながら、作業の実施状況について話し合い、今後の公園整備の方向づけの機会としているところです。なお、このイベントは小学生、中学生の子供たちも参加させることにより、歴史ある鹿野のまちづくりに対する町民の皆さんの苦労、努力、思いの一端を感じていただき、まちづくりの意識を受け継いでもらう機会にもしているところです。

次に、集落整備にもいろいろ取り組んでいまして、地区の中心部は街並み環境整備事業によって整備された水路に、山から竹を切り出し加工して竹プランターを作製し、花を植え、景観づくりを実施しているところです。その他の地区でも集落内修景としてミツバツツジの植栽、しだれ桜の並木づくり、集落の公園整備等が順次実施されており、花あふれる歴史と文化のまち、四季薫るまち鹿野づくりに取り組んでいるところです。

• 集落修景（孟宗竹プランター&花植え）

課題のある取り組みとしては、先ほど危機管理課から防災についていろいろ説明がありましたが、防災、防犯対策の取り組みがなかなか順調に進んでいない状況があります。近年の日本の災害の状況を見ますと、いままで起きたこともない地区で起きる、いつどこでどんな災害が起きるかわからないということで、我々も一昨年から集落の自主防災会と協議しながら、説明会や座談会、また避難訓練等をお願いし、実施してきたところですが、残念ながら１８の集落の中でまだ６集落しか実施できていません。あとはまだまだです。

そうした中でも、気高消防署の方が感心するほど、幼児から高齢者まで集落約６０名が参加して総合的な防災訓練を実施した集落もあります。けが人の搬送等は力のある中学生がやれということで、中学生がずっと搬送したり、けがの対応は集落内の看護師さんのＯＢ等がしたりということで、集落のほとんどの方が参加し体験したすばらしい訓練がされました。

防災にいろいろ取り組んでいるのですが、なかなか進まないひとつの原因は、我々の進め方にもあるかもしれませんが、やはり近年、鳥取県を含めてかもしれませんが、鹿野地区で大きな災害が起きていません。言っていることはわかるが、わしのとこは大丈夫だわいやという感覚があるのかなという気がしています。これから重要性、必要性を自主防災会の皆さんにもお話ししていく必要がありますが、自主防災会の組織もいま、自治公民館長さんが自主防災会の会長を兼務しているところがほとんどでありまして、どうもそれでは進まないと。館長さんの業務の方が忙しくて、とてもそっちの方まで意識が回らないと

いう状況もあります。そうした組織の見直しも含めて検討し、将来的にも継続できる組織をつくり、防災、減災に役立てていきたいと思っているところです。

一方、防犯ということについては、高齢者また子供の安全ということを目指しまして、この４月に鹿野町に３つあるまちづくり組織、鹿野まち普請の会、勝谷元気づくりの会、小鷲河ふる里をまもる会の３組織を中心に、町内の学校、保護者会、また民生委員さんとか、関係するすべての組織を包含した鹿野町安心まちづくりの会を結成して、「笑顔であいさつ・安心しかの」というキャッチフレーズのもとに、安全見守り活動を中心に、いま、進めているところです。小学生、中学生、幼稚園の園児がつくったあいさつ運動と防犯の最優秀の標語をのぼり旗にして掲揚したり、スタッフのジャケットをつくったり、それから車に「安心しかのパトロール中」というマグネットを張ったりしながら、取り組みをしていこうと、また、老人クラブさんを中心に子供の通学時の安全確保を行っていただく、そういうことにいま取り組んでいますが、まだ始まったばかりですので、これから関係機関と相談しながら、この部分は進めていきたい、また進んでいくのではないかなと期待しているところです。

６　地域の課題についての市長等との意見交換

（支所長）

１点目は街なみ環境整備事業の継続についてです。

平成８年から、祭りの似合うまちということをイメージとして事業に取り組んでいます。この中で公的空間は行政、私的空間については住民の方が取り組むことになっています。私的空間整備について、町内ごとに定めている協定に基づいて整備する場合、一定額を補助する制度があります。この制度が平成２６年で終了するということですが、２７年度以降の事業継続についてということです。

もう１点は、いまの協働のまちづくりの中でもお話がありました城跡公園の管理、保全と文化財についてということです。

地区民挙げて、ボランティアによって城跡公園を管理していただいていますことに大変感謝申し上げます。本当にありがとうございます。今後も新植等を含めた計画的な景観保全の取り組みを計画しておられるようです。ただ、この区域は市の史跡に指定されています。

街並み環境整備事業の継続について

平成８年度から実施している街なみ環境整備事業では、鹿野城下８町内を対象として道路・水路等の公的空間の整備、個人住宅修景等個人空間整備に行政と住民が一体となって取り組んでおり、今日までの鹿野地区のまちづくりを進める上において、欠かすことの出来ない基礎事業となっています。

平成２２年度からは、社会資本整備総合交付金事業として継続していただき、年々個人修景も実施されている。

しかしながら本事業も平成２６年度までとなっています。そこで、個人住宅修景が鹿野のまちづくり景観に及ぼす影響は大きく、平成２２年度の地域づくり懇談会においても事業継続要望を行い、都市整備部長より平成２６年度まで継続との回答を頂いているが、住宅修景は個人の家屋・経済状況があり短期間に出来るもので無く、中途で止めるべき事業でも無いと感じています。

いままで取り組みしてきた、日本の原風景を後世に繋いでいくためにも、平成２６年度以降も個人住宅修景に対する支援の継続をお願いしたい。

＜担当部局の所見等＞

【都市整備部】

本市では、市域全域を景観法に基づく「景観計画区域」とし、良好な景観形成を目指しています。

この景観計画区域のうち、良好な景観の形成上、特に重要な地域として「久松山山系」「湖山池」「因幡白兎」「鹿野城下町」の４地域を景観形成重点区域に指定しています。

鹿野町の街なみ環境整備は平成８年度から今年度まで１６年間、地区住民の方々の発意と創意により実施され、城下町の風情の残る街なみが着実に形成されてきました。

社会資本整備総合交付金事業による鹿野町の街なみ環境整備事業は平成２６年度までで終了しますが、本市としましては、社会資本整備総合交付金事業が継続する間は、鹿野町の街なみ環境整備事業も継続したいと考えています。

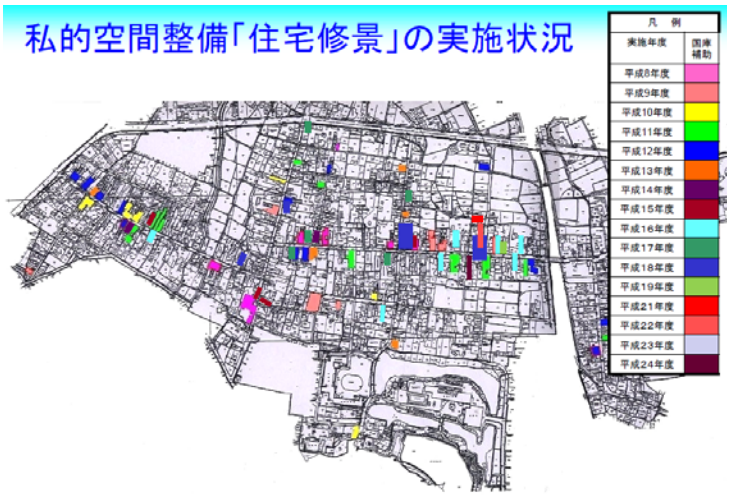
（都市整備部次長）

本市では、平成２０年３月に鳥取市景観計画を策定しました。市域全域を景観法に基づく景観形成区域としまして、景観の保全や周辺との調和を重視した景観形成を目指しています。この景観計画区域のうち、歴史文化、自然等の特色が象徴的にあらわれ、良好な景観の形成上、特に重要な地域であるとしまして、画面にありますように、久松山山系、湖山池、因幡白兎、鹿野城下町の４つの地域を景観形成重点区域に指定しています。

鹿野城下町景観形成重点区域は、鹿野祭をとり行う８つの町内会で形成されている地域です。鹿野町の街なみ環境整備は、平成８年度から今年度まで１６年間、地区住民の方々の発意と創意により実施されてきていまして、城下町の風情の残る町並みが着実に形成されてきました。

少しわかりにくいかと思いますが、こちらが平成８年度から今年度までの個人住宅修景の実施状況です。着色されている箇所が住宅修景実施箇所です。個人住宅修景の例としましては、画面にありますように、屋根がわら、格子、妻壁の板張り、玄関戸、室外機の囲い、車庫の目隠しなどです。

現在、鹿野町の街なみ環境整備事業は、国の社会資本整備総合交付金を活用して実施しています。実施に当たりましては、国に社会資本整備総合計画を提出する必要がありまして、この計画での事業実施期間は平成２６年度が最終年度になっています。しかし、本市としては、鹿野町の街なみ環境整備事業については、社会資本整備総合交付金が継続する間は継続したいと考えていますとともに、新たな国の交付金事業に変わりましても、引き続き継続したいと考えています。



鹿野城跡公園整備と文化財について

鹿野城跡公園は、平成７年度に町民憩いの場として整備され、その後地区公民館が中心となり各自治会協力のもとに年３回の清掃活動・城山まもりたいによる保全活動など、地区民上げて景観保全に取り組んでいます。

今年４月には城跡公園のシンボルである黒松が強風により倒木し、良好な景観が失われてしまいました。

鹿野地域住民の心のふるさと・よりどころでもあると共に、春の桜・秋の彼岸花・紅葉・冬の椿と１年を通して、多くの方が訪れる城跡公園の景観を維持拡充していくため、地区住民一体の基計画的な植栽や保全に取り組んで行きたいと考えていますが、市指定の文化財に登録されているため、新植等は困難な状況に有ります。

今後、文化財保護施策だけではなく、現状を保全しながらも積極的に景観保全活動を進める事が出来る対応をお願いしたい。

＜担当部局の所見等＞

【教育委員会事務局】

鹿野城跡は、平成４年３月、旧鹿野町において町の史跡に指定され、現在は市の史跡として引き継がれています。

また、城跡公園として整備され、地域住民の方々には年間を通し史跡としての価値を損なわない範囲で、保全活動に取り組んでいただいているところです。

引き続き、清掃活動や保全活動にご協力をいただきながら、史跡としての保全を図ってまいりたいと考えています。

協働のまちづくりを進めるためにも、新植を含めた積極的な活動をしていただく上でのガイドラインを定めたいと考えていますので、地域の方々、総合支所を交えた話し合いの場を設けさせていただきたいと思います。

（教育長）

鹿野城跡は鳥取城跡と同様に、江戸時代初期の因幡の主要な城郭の姿を知ることができる大変貴重な遺跡であり、平成４年３月に旧鹿野町によって町の史跡指定をされて、平成１６年の合併以降は市の史跡となっています。旧鹿野町時代の公園整備の際には、遺構に影響を与えないなど、史跡としての価値を損なわない配慮がなされています。

先ほども報告がありましたが、城跡公園の環境を保つために、鹿野地区の皆さん方が清掃活動など、さまざまな取り組みを進めておられることに大変感謝をしています。今後も地域の皆さんと一緒に、城跡公園の環境を保つことができればと考えています。

この鹿野城跡には、亀井茲矩公時代の遺構やそれ以前の中世の城郭の遺構が残っていますので、取り組みに当たってはこれらを保護していく必要があります。これまでは案件ごとに教育委員会とご相談いただいていたと思いますが、協働のまちづくりを進めるために、ガイドラインを作成するなどの方策を考えたいと思っています。ついては、今回お話のあったクロマツの植えかえのお話も含めまして、早急に地域の方々と総合支所を交えて話し合いをさせていただきたいと思っています。

鹿野城跡公園

倒木前　　倒木後

（地元意見）

１点目は、今年の４月２２日、４００年の歴史のある松が倒木しました。亀井茲矩公が亡くなったのは１６１２年ですから、ちょうど４００年に当たります。この松の木も４００年と言われていまして、それに合わせたかのように４月２２日の朝方だと思いますが、ちょうど日曜日で私も朝早く行ってみたらもう倒れた状態で、我々城山まもりたいではいかんともしがたい状態になっていました。

松の木はどのぐらいの寿命があるのかインターネットで調べますと、ちゃんと保全すれば、７００年から８００年生きると書かれていました。あと１本残っていますが、これに関しては何の保全もされていません。私個人の希望になるかもしれませんが、７００年か

ら８００年生きるとすれば、少なくともあと３００年ぐらいは後世に残したいと思っています。

それで、重力的に見れば堀の方に傾いていますから、例えば雪の重みとか、今年の４月２２日と同じぐらいの大風が吹けばまた倒れる可能性がありますので、この松の木の１本を何とか倒れないように、保全をやっていただきたいと。というのは、そこに看板があるのですが、平成１８年１２月に市長の名前で、鳥取市の保存樹の指定をしていただきました。保存樹ということであればやはり何らかの保全対策をしなければならないのではないかと私どもは考えています。この２本の松が保存樹に指定されています。景観整備、それから美観整備とか、そういう目的のために保存樹に指定されたと思うのですが、我々鹿野町民からしてみると小学校、中学校と非常に思い出深い、先祖代々からの松ですので、ぜひともこの１本の保全対策を早急にお願いしたいところです。

もう１点は、文化財等の調査がなされていないということで、新しい植樹はできないと思うのですが、１本は倒れてしまいましたから、なるべく早く、１，０００㎡ぐらいのエリアですから、文化財調査の予算をとっていただいて、早急に新しい松を植えたいと思います。

（産業建設課長）

現在、対応しています保全の状況についてご説明申し上げます。現在、城山一帯の管理の部分で２５０万円程度予算がついていまして、その中で年に２回程度の松の保全ということで栄養剤を根元に撒くといった対応をしています。また、まず根元を保護することが大事ですので、松の周りには杭を打ち、そして杭にはロープを張りまして、どんどん人が入って根元を踏み固めないように対応しているところです。

今後どのような方法がベストなのかといったことに関しては、また専門家の意見などを交えながら協議をしてまいりたいと思っています。

（地元意見）

この松は重力的に堀に向かっていますから、雪の重みなど上から大きな重力がかかれば倒れる可能性があります。協議ばかりやっていたのではだめだと思いますので、早急に対策をお願いします。

（文化財課長）

まず、倒木の松の新植についてですが、文化財の保護ということで、遺構に傷をつけない方法を探ることになります。倒れた松の植えかえについては、遺構を傷つけない格好でするような方向を、またお話し合いをさせていただきたいというのがまず１点です。

それから、以前も景観向上ということで、いろいろな新植の計画をされたと聞いています。それについても、いま現在、例えば案を持っておられるのであれば事前に聞かせていただいて、こういう植え方なら大丈夫でしょうと、これぐらいの根の深いものなら大丈夫でしょうという格好で、すり合わせをしながらガイドラインを定め、お互いが共通認識をする格好でさせていただけたらと思っています。

（地元意見）
現在倒れかかったような松ですが、これは昔からの景観を維持したような格好なので、これを倒れるからといって真っすぐにしたらこの松の値打ちはないし、やはり考えものなのです。私はもともとの景観という意味では、ほぼこの格好で現存できる方がいいと思います。これを真っすぐにしたら、この松は値打ちがなくなります。松が枯れてもいけないし、ですから、その方法をよく考えていただきたいと思います。

（産業建設課長）
倒れた松は根元の方がすいていまして、若干浮き上がるような形でしたが、この松は、根がしっかりしているというふうに見受けられます。ですが、やはり専門家の方に見ていただいて、どういう状況なのかということを詳細に確認しながら、どういう対策ができるのかを考えていく必要があると考えています。いまある松を真っすぐに伸ばすということがいいのか、あるいはこのままの方がいいのか、そういったことも含めながら考えたいと思っています。

（竹内市長）
松の件は私もいろいろ聞いています。倒れたのは大変残念なことですが、大きな風が吹いて倒れて、その後をどういうふうに活用しようかということで、地域の方の知恵もいただいて、皆さんが喜ばれる方法でと言っていたところ、活用の道も決まって、方向づけが決まって、既にいろいろに活用されている最中だとのことです。まだ残っている部分もあるように聞いていますが、由緒ある、皆さんの心の支えともいうべき松ですので、適切な方法があればぜひ地域の中で活用していただき、また我々も必要な支援といいますか、搬出、その他あったと思いますが、何かできることがあれば考えていきたいと思います。
それが１点と、それから倒れた方の松の原因は気象条件もあったと思いますが、先ほど根の方が少し浮いていたようなお話もありました。私は現実には倒れる前を見ていないので、原因もよく把握して、いま残っている１本の松の方を保全すべきだというご意見には、私も賛成です。そのとおりだと思います。よく松に添え木をつけるような場合もありますよね。場合によってはそういうことができるのかできないのか、ほかのいい方法があるのか。これも景観にかかわる問題でもありますので、早目に検討した上で策を、方法を講じたいと思います。
先ほど支所の課長から説明がありましたが、やはりこれは早くしなければいけないと思います。私が質問しておかしいかもしれないが、年度内でちゃんとやれるのかな。雪のことが心配だというご意見が出ていましたので、ちょっと確認しておかないといけないと思ってマイクを持った次第です。どうですか。

（産業建設課長）
検討させていただきます。いま、即答できず、申しわけありません。

（竹内市長）
いやいや、まず方法の検討は速やかにやりまして、あと実施の時期ですよね。差し当た

りできることをまず行わなければいけませんし、気象条件はいろいろありますからね。風が吹くのは春に多いと思いますが、雪はもちろん冬に多いわけで、その辺、支所長さん、地元の方がご心配ないようにぜひ手を打ってもらいたいと思います、差し当たりね。また相談してください。

（支所長）
メンバーの中にも詳しい方もおられますので、そういう方とご相談させていただきながら、また必要な手当てができれば検討を考えたいと思います。

（竹内市長）
安心しました。

＜補足：産業建設課＞
残された黒松の保護対策として、以下のとおり対応しました。
①強風による倒木を防ぐため、ワイヤー支柱を６本設置しました。
②根を保護するため、幹の周囲への入り込みを防ぐ柵（木杭とロープを使用）を設置しました。
※上記の作業は、平成２４年１２月２５日に完了しました。

７　市政の課題についての意見交換（フリートーク）

（地元意見）
先ほどのまちづくりの件の続きになると思いますが、童里夢とかいろいろしていただいて、また下町地区をカラー舗装していただいて、大変美観がよくなって喜んでいるところです。ただ一方、私たち殿町とか紺屋町地区は２年、３年前から舗装のことを言っているのですが、いまだ道というよりもバラスの上を歩いている状態です。箒でその石をとられて、これだけ道路から石が出ていると持ってこられる方があります。早急に検討をお願いできたらと思います。

（都市整備部次長）
いまお話がありました舗装の件については、担当は道路課になりますが、道路課の方で修繕について、いま検討中ですので、またきょうのご意見も踏まえまして、早急な対応をするように道路課の方に伝えたいと思います。

（地元意見）
新しく教育長になられまして大変ご苦労さまです。少子化によって幼稚園、小学生、中学生がだんだん少なくなって、大変な状況になっていますし、これから先もますますそういう状況になるだろうと。高齢化はどんどん進みますし。
用瀬などが合併するように、近い将来気高３町の中学校が一つになるとか、そういう構想があるのかどうかわかりませんが、そういうことよりもむしろ小学校、中学校を一体化して、一つのところに中学校と小学校を。中学校を小学校と一緒にして一貫校にすれば、

小学生と中学生、兄ちゃんと弟や妹が一緒に学べるというメリットもあると思います。孫が大きくなるとそういう心配をするものです。市の教育委員会として、そういうことがいま既にきているわけですから、近い将来的な問題としてどう考えておられるか。少子化の推移はわかりますからね。これから先、５年先、１０年先になったら、鹿野の小・中学校がどういう状態にあるのかということを懸念するもので、そういうことについて、教育委員会は、鹿野に限らず、検討しておられることがあれば聞かせていただきたいと思います。

（教育長）

何十年も前になりますが、ここの小学校も中学校も当時の子供たちの数はかなり多かったと思います。いま、私は６２歳なのですが、同級生たちが鹿野の中学校に通っていたころは、３００人か４００人ぐらいいたのではないですかね。おっしゃるように、どんどん数が減って、いま１００人を割りました。本当にこのままでいいのかという思いは私もよくわかります。

これは鹿野だけではなくて、ほかにもやはり同様なお考え、悩み、心配をされているところはたくさんあるわけです。では、どうするのかということで、いろいろ議論をされています。行政サイドもそういう議論をしますし、それから親御さんや地域の方々も同様な議論をされていまして、まさにどうしたらいいのかというのが本当のところです。

とりわけ教育委員会の方では、校区審議会という委員会を立ち上げて、どうするといいのかということをいま、模索しているところです。小中一貫という形は湖南学園がとっています。あるいは統合という形がいいのか、いろんな形があると思います。一体どういうことがいいのか、これからしっかり研究、議論をしていくところだと考えています。

（地元意見）

市長さんに大変おこがましい話ですが、合併して８年になるわけですが、鹿野町民の方々それぞれ賛否両論、よかったとか、やっぱり不都合だという意見がたくさん聞かれます。どっちがいいとか悪いかは別にして、合併特例債が５００億円か幾らかあるようです。そういうものをつかって、私どもの住民生活やサービスがある程度健全な状態で維持できるということを聞いて合併されたと、当時の町長や助役等の説明で聞いているのです。

開けてみれば、こうして財政難ということで、市長さん方々は大変な目をしておられると思うのですが、地域の方から見ると取り残されてしまうように感じるのです。８町村が合併して２０万都市が当時できたわけですが、そこの８町村のあり方というのはそれぞれその地域で頑張っているところもあるわけですが、財政面がついてこないとなかなか動きにくいという現実の問題もあるわけです。極端なことを言うと、特例債の何分の１ぐらいかを、例えば合併した地域に還元する、それくらいのことをしないと。地域の皆さんが知恵を出し合って郷土の発展のために、地域づくりのためにやろうやということへの裏付けがないと、いつまでもボランティア、ボランティアといっても限界があるわけです。市長さん自身や、市の執行部の皆さんでそういうこともあるなということをお感じになっておられるかどうか、ちょっと聞いてみたいなと思います。

（竹内市長）

地域審議会の会長さんから、地域審議会からという意味ではなくてだと思いますが、合併後、ちょうど満８年たったところなのでということです。合併は大体１０年というのが一つの区切りと考えながら、いろんな取り組みがなされているわけですが、８年たって本当にいろんなご意見があろうことは私も理解はできます。しかし、市役所では合併を前提としながら、今後この鹿野町を含めて、当然ですが鳥取市全体としてどう市民生活を支えていくか。例えばどう産業を発展させて働く場を確保するかとか、福祉とか、いまお話もあった教育とか、いろんな行政上の課題を全市一体として考える一方で、地域の特色ある発展とか、にぎわいとか、そういったことに対応しているわけです。

全市が一体となることによりまして、いろんな統合のメリットも生まれているわけです。ひとつは行政経費が少なくなって、そして合併によってより行政サービスの内容が高度化、専門化もできるということで、行政執行の効率化が進んでいるわけです。こういったことで政策的な経費により多くのお金を割くことができますので、産業でも福祉でも教育でも、政策の面に力を入れています。

合併特例債も使えるものには積極的に使っています。これは市内のどこの地域についても言えまして、合併特例債の使い方についてもいろんな意見がありますが、過疎債が使えるところは過疎債を使ったり、使えなくても合併特例債を使ったりすることで、特に後年度の負担を軽くするような財政的に有利な取り組みをしています。往来交流館などもその一つの例だったと思いますし、必ず一番有利な方法をということで、鹿野地域はもとより、市全域にわたって使っています。これを配分してとか、そういう考え方は持っていなくて、一体として選択と集中ということを考えながら、実施をしている状況です。

また、総合支所については、地域の皆さんが必要とされる限りずっと存続すると、私は一貫して地域の拠点となる総合支所の存続をずっと言っていますし、これは段階的に縮小するとか、そういうことは全く考えていません。先ほど道路の話も出ていましたが、ご存じのように道路の維持管理などについては一定の予算を地域に配分して、各総合支所で優先順位の高いところからそれを実施していると、そういった実態がありますし、各総合支所から地域の実情に応じたいろんな政策的な取り組みを提案をしてもらって、それを市の施策として具体化していくと、そういったことがあるわけです。亀井公の４００年といったような施策についてもご相談を受けたことがあり、ぜひ実現しようではないかということで進んできているわけです。

財政というのはあまり仕分けをしてしまうと、かえって効率的に使うことができないという面もあります。財布は大きな財布にしておいて、お金はプールをしておいて、大事な、有効なものに活用していくと、そういったことで執行部としても、それから市議会でも議論しながらやっていこうということです。また、地域の声は総合支所や地域審議会からもご意見を伺いながら進めていきたいと考えています。

鳥取市は、まちづくりとしては多極型のコンパクトシティということを言っていまして、例えば西部地域と言っています鹿野町、気高町、青谷町、この３町にそれぞれ地域生活拠点というのを設けて、それと中心核と言っています鳥取駅を中心とした中心市街地、これを結んでいって、町のいろんな機能も活用しながらそれぞれの地域の発展を図っていくと、そういう構造を考えています。生活圏が一つですので、これはやっぱり一緒に一つの地域として発展を図っていく。これからまた道路整備も進めば、より時間、距離も狭まるとか、

実感としての鳥取市がまた一回りも二回りも小さくなるということが起こってきます。山陰道を含めて、道路整備がもう少し遅れている状況で、これについては促進を図っていきたいと思っていますが、生活圏が一体的になっていますので、その中でよりよいまちづくりの工夫とか、よりよい鳥取市の行政の努力を、全体としてバランスをとりながらやっていくというのが私たちの責任ではないかと思っているところです。

合併について、我々としては後ろを振り返るというよりは、これから前に向かってどうしていこうという、そういった議論をこれからも一緒にさせていただけたらなと思っています。

（地元意見）

予算は効率的に使うために大きな枠の中で、地域の事業は地域の方でやるというふうにおっしゃいました。支所長さんには本庁の次長級の権限を与えるということになっているわけですよね。しかし実際、事業を実施する場合に、合併した後はその事業の実施が適時適切にされていない、ちょっと遅くなっているのではないかという意見も聞くわけです。県でいいますと、予算の配当をし、出先で適時適切に事業がやれる形になっていたと思います。市の方もそういう形になっているのかどうか。実際に事業をやる仕組みですね。資金なり、そういうものの手当てなどどういうふうになっているか。スムーズにやれるようになっているのかということをお尋ねしたいのですが。

（総務部長）

支所でのいろんな事業について、どういった流れで予算がついていくのかというお話ですが、一般的には、まず各総合支所からの、来年度こういったことがしたい、ああいったことがしたいという案を、都市整備部ですとか、いろんなところが集約をいたします。その集約したものを、支所の産業建設課とか、そういったところでできるものか、大きなもので都市整備部や農林水産部、そういったところが一括してやるのがいいのかという判断をした上で、それぞれの担当で予算要求をする格好になっています。支所の声がなかなか本庁に届かないとよく言われますが、もう合併して８年も経って、みんな知恵がついてきていますので、連携している状況になっていると思います。

私どもとしては合併して８年、いろいろ試行錯誤の部分もありましたが、そういったことを踏まえて連携をとりながら、支所長さんの権限もどんどん増やしています。職員の異動とかいろんなことも、支所長さんにも権限を持っていただくようにもしましたし、いろんな知恵を絞りながら、皆さんからの声を聞きながら、ちょっとずつ改善してやっているというところです。あとは支所長さんのご意見も聞きたいと思います。

（竹内市長）

支所長さんにもちょっと答えてもらって。実感として当事者で、本庁の様子もわかるし。

（支所長）

大変つらい立場ですが。いま、総務部長の方からお話がありましたように、総合支所としては、予算編成について、支所として必要な部分の予算を立ち上げて本課や財政の方に

要求させていただいています。地域特定予算というものと、それから本課で予算を組んでいただく、この２本立てがあります。鹿野の中では優先順位をつけて出しますが、鳥取市全体としてさらにその中に優先順位をつけるということになれば、こちらが思っているよりも少し遅れる順位になるというところもありますので、その辺が地元としては少し歯がゆい部分があるかもしれませんが、市全体を見渡した中での事業実施ということで、ご理解いただければと思っています。

（地元意見）

わかりました。とにかく効率的に仕事ができるように、いちいち本庁の部長さんのところまで行かないとできないということでなしに、任せた部分は支所でやれるようによろしくお願いします。

（竹内市長）

具体的にこういう事業がこういうふうになっているということがあれば、また改めてお伺いをしたいと思いますが、先ほどの維持管理等も含めて、現場でやってもらうための、恒常的に必要となるような一定の経費などはできるだけ、現場に配分して、そこで実施してもっています。事業の内容によってはもちろん本庁の課の方で契約して発注するとか、そういうものもあるわけです。いずれの場合も地元の方にとっては早くいい具合にしてくれということが基本にあるわけですので、そういった声を支所や本庁を通じて、場合によっては通じない場合でも結構ですが、声を伝えていただければ、ここはこうした方がいいではないかという検討や議論はいつでもできる体制になっています。そういうふうにお感じになられたときには、先ほど道路の舗装の話も出ていましたが、ぜひそういうことをお伝えいただいて検討させてほしいと思います。月に何回かは支所長さんも幹部会などで本庁に来られる場合もありますし、必要なときはそれ以外でも各課を回っておられると思いますので、必要なことは伝えて、一緒になって検討して実施する努力をこれからもしていきたいと思います。

地域の中で何か困っていること、問題があれば、できるだけ早く対応したいということで、みんな積極的に考えるようにしていますので、その気持ちや姿勢はご理解いただければと思います。あとはそれが実際に行われるように我々も努力しますが、やっぱり地域の方からの声をいただいて的確に動かしていただきたいと、そういうこともお願いしておきたいと思います。

（地元意見）

いま、支所と本庁の話が出ましたので、鹿野の総合支所の職員の皆さんの活躍状況をよく知っていただいて、幹部職員の皆さんにぜひ人事評価にしかるべき反映をと思っているのですが。

つい最近、鹿野ではわったいな祭がありました。それから、先ほど市長さんもおいでになりましたふるさとミュージカル、これは仕事の部分として支所長以下、たくさんの職員の方に出ていただいているのですが、かなり遅い時間まで、例えば最後の片づけなども、課長さんとか支所長ももちろんそうですが、遅くまで活躍というか働いていただいて、非

常に町民は助かっています。そういう公の部分以外にも、例えばきょうおいでになっていますが、鳥の演劇祭のときなどでも積極的に参加をされて踊りをするとか、町民と一体となって取り組んでいただいていまして、非常に我々地元住民は頼もしく思っているところです。

そういう意欲のある職員さんをぜひ鹿野に置いていただいて、長くこのポストから離れないように、一町民としてお願いと、あわせて反対に資格が上がるように、ぜひよろしくお願いしたいと思います。

（竹内市長）

では、少しお答えさせていただきますが、わったいな祭は私、ほかの仕事があって今年は寄れなかったのですが、鹿野の職員の皆さんがいろんな機会に、縁の下の力持ちというか、陰になっていろんなイベントを盛り上げていると。地域の主要のイベントなどを見ていまして、そういうことは十分私も承知しています。

そういった点は私も推奨していまして、市の職員に対して地域の活動に積極的に参加するようにと言っています。合併して間もないころはどうもあまり参加しなくなったとか、そういうご批判を受けていたような気がしますが、最近はあまりそういうことを聞かなくなってよくなったなと思っていたところでした。ですから、褒めていただいたのが本当にうれしいのですが、職員が頑張っていることを十分認識して、職員の処遇などの問題もできるだけ考えられることは考えていこうと思っています。

もっとも官民格差みたいなこともよく議論になりますので、これも認識しておかないと。何だか公務員はということを言われますよね、そのことも心しながらではありますが。そう言われないように支所の職員、あるいは本庁の職員ともどもしっかりと、人の３倍ぐらい働いているのだというところを見せなければいけないと、実際思っているところです。

支所長さんはじめ、ここにいらっしゃる人たちは大体働き者の方が多いなと私も思っていますので、同感です。みんなで頑張りながら地域をよくしていく。そして職場での仕事だけではなくて、地域の中での活動にも参加する。これがいま、必要とされていると思っています。

（地元意見）

４月２２日の強風のときに、浄化センターの屋根が吹っ飛んだのに、これを随分ほったらかしにしていた。私も連絡したのですが、管理者の体制が悪い。管理制度を見直してください。雨が降ったり強風があったりするのに対応が遅い。応急処置も３週間ぐらいたってからナイロンをかぶせているので、これはお粗末過ぎる。よく考えてください。

（産業建設課長）

大風で浄化センターの処理場のかわらが部分的に飛んでいましたことについては把握していました。対応が遅れたことは大変申しわけなく思っています。今後こういったことがないように、できるだけ早く直せるような体制をとっていくようにしたいと考えています。申しわけありませんでした。

（地元意見）

鳥の劇場について、新聞で報道されていたのですが、屋根の修繕に随分かかるということです。これはふるさとミュージカルみたいに勤労者がやっているものではなくて、確かに趣味も文化もあるでしょうが、彼らや彼女たちは営利でやっている。その屋根修繕に、一定の範囲をつけて、１割とか１５％とかを補助という格好で出すのだったらわかりますが、大半を市が補助するようなことはやめていただきたいと思います。

これからまた悪くなるとか、いまの状況では耐震に対応できないので、耐震の金も出してくれと次々ねだると思うのですよ。彼らは勤労者がやっているという格好でなくて、専門職でやっているのですから、もし儲かると思えばロングランで鳥取の文化ホールに出ればいいのですよ。それから、ほかの廃校のところもありますので、そういうところを目がけていくとか、そういうことで考えてもらいたいと思います。

（企画推進部長）

鳥の劇場についてご意見をいただきました。現在、鳥の劇場は全国的に見ても、非常に活発で大した取り組みだということで注目を浴びているようなところです。ただ、市の支援といいますのが、現在は無償で小学校跡をお貸しすることが一番の支援だということです。そのほかの小さい修繕とか維持管理等は劇場の方でやってくださいということで、先ほどおっしゃっていました全額補助ということはありません。ただ、屋根の修繕ですが、これはやはり費用もかかりますので、これは市議会とも、それから県とも相談しまして、何とか支援すべきではないかということで、９月議会で予算がついて修繕をさせていただいたということです。

いまの状況をお伝えしますと、市議会の方でも県の方でも非常に関心を集めておられる。といいますのが、この鹿野の地に県外、全国から、また国外から交流人口を非常に生んでいると。ものすごい人気ですよね。これに対して現状を見ると、やはりもうちょっとしっかりした支援の方法を考えるべきではないかという声も、県、それから市議会から出ています。何とか側面から支援していくべきではないかと。おっしゃっていたこととは逆の方向になるのですが、いま、我々はそういうことを考えているところです。これがまた鹿野の地に人を呼び込む大きなツール、道具になりますし、これだけ頑張っていただいている鹿野の地域ですから、もっとどんどん人に入ってきていただきたいと我々も思っています。そのあたりご理解をいただけたらと思っています。

（地元意見）

２６年４月に市長選、それから２６年１１月、半年ちょっとで市議選です。市長選で３，０００万円、それから市議選で７，０００万円、それで、この前の住民投票で４，０００万円かかっているのです。半年ちょっとで、先発は市長選なのですが、３，０００万円は丸々浮かないにしろ、２，０００万円ぐらいになるような格好で、条例で市会議員と市長選ダブル選挙ができるように。県会議員となればややこしいかと思いますが、そういうことで条例をうまく考えて経費節減をして。もっと優先的に使うところがあるかと思いますので、考えてください。

（竹内市長）

まず、選挙の時期がちょっと違っているということ。４年の任期ということとこれまでのそれぞれの市長選挙、市議会議員選挙、県の方の選挙まで一緒にということは難しかろうがという感じでのお話だったように思います。県の場合は知事選と県議選が一緒の時期に統一地方選でいまやっているわけですが、一緒にした方が経費が節減できると、私もその点はそのとおりだと思います。一緒にする方法がないのかなと思うことはたびたびありますが、なかなか実現しにくい事実があります。

鹿野町の場合どうだったのかちょっと記憶していませんが、今後の課題として何とか一致できないか、できる機会はないのか、これは私自身考えていきたいとは思いますが、なかなか難問であるということは申し上げておきたいと思います。

それから住民投票も実際には５，７００万円ぐらいと、大変な費用がかかったことは事実です。民主主義にはある程度時間と経費はかかるのだという人もいますが、やはりこれに対しても見る方によっての意見もありましょう。ですから、こうしたことを通じて、一定の費用はかかったとしてもよりよい結論を導き出すような取り組みをすることが、我々に課せられています。選挙で選ばれた者としてはその職責を十分に果たすということは当たり前のことですが、選んだ市民の方から評価されるような、理解をいただくような取り組みをしていくことが求められるという思いです。

いずれにしても、一緒にできないまでも経費の節減に努めるといったことについては、いろんな形で努力を続けていきたいと思います。

８　市長あいさつ

皆さん、ありがとうございました。皆さんの貴重な時間を充てていただいてご参加をいただいたわけですし、大変熱心にいろんなご質問やご意見をいただきました。

これからもいろんなご意見をしっかりと受けとめながら、市政に反映していく、そのためには身近な総合支所を大事にしていただきたいと私からもお願いしたいと思います。冒頭のごあいさつで、私をはじめとして市の執行部の人間がじかに話をする機会が少ないというお話がありました。たしかに出向いてお話しする機会はそんなに多くないわけで、この地域づくり懇談会を中心にしているというのが実態ですが、市長への手紙という制度で、直接個々の皆さんのご意見をいつでも届けていただく仕組みもつくっていますし、支所長相談会という、支所長さんのところにいろいろお話をいただくような機会もつくっているところです。我々は一緒になって地域をよくしていこうという、協働のまちづくりの精神を基本にして仕事をしているわけですので、おっくうな気持ちになられないで、ぜひ自分の意見はこうだということを、どんどんおっしゃっていただいたり伝えたりしていただきたい。その中で、こういった形でご支援をするということもあれば、こちらの対応の限界ということもありますし、皆さん自身が力を合わせればできるということもあるわけですが、新たに目を開いて考えていく、耳を開いてお話を聞いて考える、そういったことに努めてまいりますので、ぜひそういったこともご理解の上、ご意見をちょうだいできたらと思います。

それぞれの地域が、この鹿野の地域がまさにその一つですが、特色ある文化や伝統を持

ち、地域の産業もそれぞれにあって、そこの中で生活をしているわけです。ですから、他所がどうこうということ以上に、自分たちの地域に誇りを持ちながら、自信を持ってより良くしていく努力を、それぞれに固めて積み重ねていくということをぜひお願いをしたいと思いますし、我々市の執行部もそういった取り組みに、一緒に力を合わせながら、地域を良くしていきたいと考えているところです。

全市的な取り組み、例えば企業誘致の取り組みなどで働く場を確保することによって若い人の定住を図るとか、鳥取市の中の人を優先的に採用してもらうということを企業にもお願いしているわけです。ぜひ皆さんにも、お子さんとかお孫さんとかが鳥取で仕事を見つけて、鳥取というふるさとの中でぜひ定住をして仕事をしていくと、そういうことをまた改めて、私からもお願いをしておきたいと思います。

学校の問題なども出ていました。いろんなことを検討しなければならない面はあろうかと思いますが、まず子供たちの数が減っているということが大きな要素であるわけです。鳥取市としてもＵターンとかＩターンも大いに奨励していますし、いろんな取り組みをいたしますので、まずは個々の住民の皆さんのパワーでぜひとも地域の皆さんに地域に帰ってきてもらうとか、あるいは地域で温かく受け入れてやっていってもらうとか、そういったことを、鹿野の皆さんですから、特にお願いをしておきたいと思います。

きょうは本当にありがとうございました。寒い季節を迎えつつありますので、どうぞお体にお気をつけいただきまして、きょうも寒い天候の１日だと思いますので、お気をつけてお過ごしいただきますようにお願いしたいと思います。ありがとうございました。